

林先生の山梨時代

八代 一浩
山梨県立大学国際政策学部 教授

林先生は1969年（昭和44年）から1998年（平成10年）までの約30年間を山梨大学で過ごされています。私は1981年に山梨大学に入学し、林先生には微分方程式や数値解析を学部で授業で受講いたしました。当時、林先生はネットワークではなく物理学を主な研究領域とされていました。微分方程式は月曜日の3時限目の授業でした。先生は実直な授業をされていました。細かく、また、きれいな講義ノートを拝見したことがあります。授業も黒板に美しい数式を書かれておりました。しかし、それを聞いている私たちは一人倒れ、二人倒れ、だんだんと机を枕に打ち死にしておりました。教えて頂いた内容はほとんど覚えていないのですが、その様子だけは強烈に覚えております。一方で、卒業して10年ほどたち、様々なセミナーで先生はネットワークのお話をされていらっしゃいました。その際には張りのある声で、喜々として話されており、本当に同一人物かと疑うほどでした。

1992年に私は専門学校サンテクノカレッジに勤務しておりました。林先生はサンテクノカレッジの非常勤講師を務めて頂いておられたのですが、同時に地域でのネットワークの研究会にも参加されていました。その研究会の場が先生と再会した場でありました。その当時はちょうどTRAINの代表でもあった時で山梨でもインターネットが動き出したときでありました。山梨大学が東京大学と接続したのがTRAINの始まりですが、その2年後の94年に山梨大学とサンテクノカレッジの間が接続したのが山梨のネットワークの始まりです。このネットワークの運用を行うことでネットワークのスキルを高めていくことになりました。このネットワークはYACC（山梨地域ネットワーク）、Y-NIX（山梨情報ネットワーク相互接続機構）と形を変えながら発展し、技術情報の交換の場であったり、人材育成の場であったりしています。

山梨は先生のお陰で、全国でもいち早くインターネットに触れることができたので、多くの実験的な試みを行うことができました。それらの試みを先生が創設に関わった情報処

理学会のDSM（分散システム運用）研究会で発表する機会や論文としてまとめる機会を得ることができました。さらにその地域のネットワーク同士を接続する活動にも積極的に参加することができました。それらをまとめることで私自身も学位を取ることができました。また、私ばかりでなく全国の多くの人たちの活躍の場となり、学位取得することができました。そのような研究環境を作っていただいたことに多くの人が感謝されていると思います。

山梨ではネットワークの応用部門でも先生は足跡を残されています。特に教育分野と医療分野は多くの方が先生のお世話になっていて、現在でもそのつながりで研究が続いています。現在、私たちはedutabという教育用のシステムを開発しています。これは小学校でiPadを使った教育を行う時に使うシステムですが、この実験を実際の小学校で使っているに聞いています。この小学校の校長先生はかつて山梨大学附属小学校で林先生と一緒に数々の実験をやっていた方です。他にも山梨大学附属小学校時代の先生が、県内に数多く残られていて、その先生達と一緒に研究活動をさせていただいております。さらにはCAUAの活動を通じて東京大学の斎藤馨先生とも教育活動でつながりができて、また新たな研究活動が始まりました。

先生からは、研究、創造する楽しみ、チャレンジ精神、人材育成など多くのことを直接・間接に学ばせて頂きました。本当に感謝の言葉以外にはありません。また、学問ばかりでなく、友人、知人などもご紹介いただきました。先生にご紹介頂いた方は本当によい方ばかりで、これらの皆様のお陰で私の人生は大変楽しく、また、有意義なものになりました。

今、少し時間がたって、これらのことを実感しているところです。先生から教えて頂いたものは、私達が受け継げるように努力するとともに、何とか学生や下の世代にも伝えていきたいと思っています。